

科目	技術経営	担当	崔 俊	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

企業における技術はもはや単なる生産性を高める手段にとどまらない。企業の運命も左右しうる核心要素になっている。したがって、企業における技術対応も既存の研究体制や研究プロジェクト管理を中心とする伝統的な「研究開発論」の観点を超えて、経営戦略的な次元から企業の技術活動全般に対する総体的な対応が求められる。本講義では既存の「研究開発」の観点を含めて、企業戦略的アプローチに沿った「技術経営」の観点から企業における技術の意味や対応のやり方に対する理解や実践方法の習得を目指す。

【履修注意】

- ・日本を代表する企業の経営戦略や新製品、新サービスの発売動向に関心を持って注目すること
- ・研究開発、技術経営、MOT等の言葉が登場する資料、本、記事は関心をもってその内容を読んでみる

【評価方法】

- ・定期試験70%、レポート10%、授業中のメモテスト整理10%、出席10%

【試験について】

- ・期末に15回の授業内容に対する総整理の意味を兼ねて、筆記試験を実施
- ・再試験対象者の条件：50点以上、60点未満で、最低11回以上出席している者

【予習・復習】

- ・授業中出された課題に対する充実な復習とともに、講義内容について予習・復習することを勧める。

【教科書】

指定教科書なし。講義内容のPPテキストと配布するテキストレジメ使用

【参考書】

書籍名：『技術経営論』、著者：藤末健三、出版社：生産性出版、2005.

書籍名：『MOTアドバンス技術戦略』、著者：早稲田大学ビジネススクール、出版社：日本能率協会、2004.

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	技術経営と研究開発	授業目標と進め、企業技術活動、技術経営の現状
2	技術へのアプローチ	諸学問からのアプローチ、経営学のアプローチ
3	技術概念の理解	技術の意味、技術革新と社会的役割、21世紀技術の役割
4	企業の技術活動	企業技術対応の枠組み、技術経営の意義
5	企業経営における技術経営	技術認識の変化、企業コンセプト、技術コンセプト
6	企業技術活動の類型	企業機能と知識体系、経営活動プロセスと技術活動類型
7	技術経営の観点	研究開発(R&Dマネジメント)、エンジニアリングマネジメント、テクノロジーマネジメント(技術経営)比較
8	技術経営の実践事例と中間整理	日本企業の技術開発事例とともに、前半の内容を整理する
9	経営戦略と技術経営	経営環境要素としての技術、経営戦略における技術要素
10	全社技術戦略	経営戦略適合的技術戦略、全社技術戦略の枠組み
11	事業技術戦略事業戦略とは	事業戦略と技術戦略の統合、事業技術戦略要素
12	技術戦略のための知識経営	経営資源としての技術の重要性、技術の戦略的活用、知識経営
13	研究開発組織と管理	研究開発の範囲と機能、技術組織化、研究人材育成
14	研究開発プロジェクト管理	研究開発テーマ選定、研究開発成果評価
15	技術集約的戦略展開の条件	技術経営実践課題総整理：技術開発戦略と部門統合、意識転換
16	期末試験	15回授業の復習・確認・まとめテスト